

# Business Report

[第82期 報告書]

2010.4.1-2011.3.31

P.01-04 Top Interview

すべてはホスピタリティから。

P.05-06 Hospitality and Vision

マーケティング力を活かし、今後は積極的な面の展開へ。  
～本格的な成長に向けて～

P.07-08 Data

財務諸表

P.09-10 Topics & Outline

トピックス・会社概要

すべてはホスピタリティから。



燦ホールディングス株式会社

Top Interview

すべては  
ホスピタリティから。

代表取締役社長 古内 耕太郎



東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。  
当社グループは、業界諸団体との連携を図りながら、被災地への支援に取り組んで参ります。

## 第一に、ホスピタリティを。本来あるべき葬儀の形を求めて。

そもそも、葬儀は何のために行うのでしょうか。

人はだれでも、奇跡的にこの世に誕生し、その後何十年という月日を家族や社会のために捧げ、やがて人生の終わりを迎えます。私は、このようなかけがえのない人生の最期を尊厳ある形で見送ることが、葬儀本来の姿ではないかと思っています。

そんな、本来あるべき葬儀の形で故人をお見送りし、悲嘆に

暮れるご遺族をしっかりと支えたい——。私は、このような想いを持って葬儀のお手伝いをしていくことこそ、燦ホールディングスグループの使命であると考えています。そのため、私たちのグループでは、全員が“ホスピタリティ”の精神を胸に、すべての業務に取り組んでいます。



## ご遺族の気持ちに寄り添う。そのために重要なのは、人材力。

私たちが葬儀のお手伝いをする際に常に気を遣っているのが、どうすればお客さまに満足いただけるサービスをご提供できるか、ということです。そのために私たちは、祭壇を飾る生花ひとつをとっても質の良い花を葬儀の当日に最も良い状態でご準備します。お車の誘導や会葬者の方の安全を確保する警備スタッフの動きにも万全の注意を払います。このようなきめ細やかな対応は、私たちのグループ企業だからこそできることで、人材力が重要となります。ご遺族の気持ちに寄り添い、ご要望に

沿った葬儀をしっかりと執り行うには、それぞれのケースにきちんと対応できるスタッフの存在は不可欠だからです。

葬儀をご利用いただいたお客さまからは『公益社さんのおかげで、良いお葬式ができました』と、お褒めの言葉をいただくことが多々あります。そうおっしゃっていただけるのも、私たちの優れた人材力と質の高いサービスがお客さまに満足いただいていることの証明だと自負しています。



## 最も重要な心のケア、 生活全般にわたるサポートを。

私たちは、公益社の遺族サポート「ひだまりの会」の運営をはじめ、「グリーンケア」に取り組んでいます。「グリーンケア」とは、大切な人を亡くされた悲しみから回復し、その後の生活に適應できるようサポートすることです。その「グリーンケア」の過程において、私たちは、大きな役割を担っています。ゆっくりとお別れいただくことで、愛する人を失ったご家族の悲しみを少しでも和らげるために、ご遺体に科学的な処置を施し、お元気だった頃の姿に近づける「エンバーミング」も提案しています。



遺族同士の「分かちあい」の様子

### 遺族サポート「ひだまりの会」

公益社は、社会貢献活動の一環として、2003年12月から「ひだまりの会」を通じてご遺族のサポートを行っています。ご遺族の悲しみを癒すきっかけに、また、前向きに生きるエネルギーの源になればと、会員による分科会・同好会活動・サロン活動などを展開しています。

現在、ご遺族には高齢者が多く、最愛の伴侶を失ったあと、単身で生活をするケースが増えています。例えば、電球一つ取り替えるだけでも苦勞する、そんな不自由な生活を強いられる場合が多いのです。そこで、今後はそうしたご遺族のためにきめ細やかに生活を支援する事業にも取り組んでいく予定です。

## 長期的な経営計画とマーケティング力で、さらなる飛躍を目指す。

現在、社会との関わり希薄化や宗教離れなどから葬儀の形式にとらわれない方が増えています。そのため、お客さまの葬儀に対する考え方は多様化し、業界を取り巻く状況は大きく変化しています。そうした環境の変化に対応するため、燦ホールディングスグループでは2009年4月より「10年ビジョン」と「中期経営計画」を掲げて2009年度からの3年間を第I期中期経営計画とし、「成長のための基盤整備」と位置づけました。そのなかで、

新たな経営理念と行動規範の浸透、そして事業の再構築(利益を生み出す仕組み)など、「企業体質の改善」を推進してきました。また、社内のマーケティング部門を最大限に活かし、お客さまのニーズを的確に捉え、集客のノウハウを培ってきました。

こうした企業体質の改善効果には手応えを感じており、第I期の最終年度である2011年度には、複数の新規会館出店をはじめ、いよいよ積極的に営業エリアの拡大をはかっていきたいと考えています。

すべてはホスピタリティから。

## 確固たる理念とビジョン。 それを持つ者のみが成長し続ける。

『介護事業には進出ししないのですか』と、よく聞かれます。

目先の売り上げ効果だけを狙うのであれば、何か目新しいことを始めるのも有効な手段なのかもしれません。しかし、公益社は79年の歴史を持ち、同業他社にはない独自の戦略で現在の地位を築いてきました。業界では唯一東証・大証第1部に株式を上場しているなど、いわば業界のブランド企業です。

今後、このブランドをさらに高め、業界のリーディングカンパニーであり続けるためには、あくまで葬儀を軸に事業の幅を広げ、しっかりとした理念とビジョンを持って経営にあたるのが大切です。そして、私たちの考える葬儀の形が、この国において葬儀のビジネスモデルとして定着することこそが、将来にわたって成長し続けるための最善の方策であると考えています。株主の皆さまには、5年後、10年後の燦ホールディングスグループにご期待いただき、引き続きご支援を賜りたいと思います。

大切な人を亡くされた悲しみから回復し、その後の生活に適應できるようサポートする「グリーフケア」が今、ますます重要視されています。公益社「ひだまりの会」立ち上げ時からの協力者の一人である、関西学院大学坂口幸弘 准教授との共著で書籍を出版いたしました。



**グリーフケア**  
—見送る人の悲しみを癒す—  
～「ひだまりの会」の軌跡～

発行：毎日新聞社

第1章 遺族を支えるグリーフケア

第2章 「ひだまりの会」とグリーフケアの軌跡

第3章 葬儀とグリーフケア



平成23年5月16日にオープンした「公益社 住吉御影会館」(取材・撮影地)



# マーケティング力を活かし、 今後は積極的な面の展開へ。

本格的な成長に向けて

## マーケティング力によるシェア向上

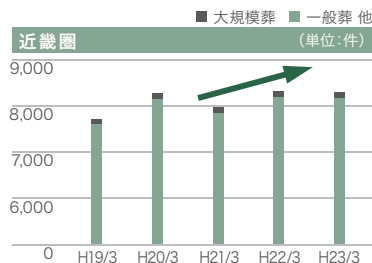
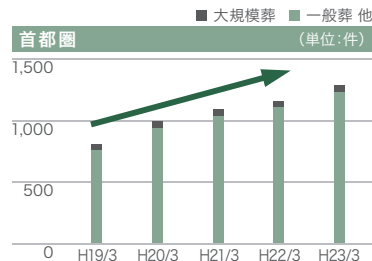
私たちの社会は高齢化が進み、亡くなる方が増えており、万が一の備えとして、事前に安心できる葬儀会社を探される方も増えています。当社グループでは、「ご葬儀相談センター」で様々なお問合せに対応し、会館見学・ご相談等を行っています。

当社グループの重点施策として、お客さまのニーズを的確に捉え、マーケティングによる集客のノウハウを培ってきました。

まず、首都圏でマーケティングを導入した結果、葬儀施行件数が伸びました。今後は、このマーケティング力を活かし、近畿圏でも展開してまいります。

さらに、次のステップとして、新規会館出店によりシェア向上をはかります。

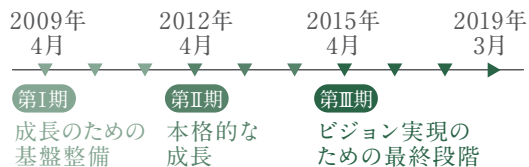
### 公益社の葬儀施行件数推移



### [ネットワーク俯瞰図]

- 公益社(首都圏)
- 公益社(近畿圏)
- 葬仙(山陰地方)
- タルイ(兵庫県南部)

### 「10年ビジョン」達成のための中期経営計画プロセス



## 葬祭施設ネットワーク拡大へ

公益社(首都圏)



公益社 田園調布会館

公益社(近畿圏)



公益社 森小路会館



公益社 住吉御影会館

### [葬祭施設ネットワーク]

公益社 (首都圏) 公益社 用賀会館 東京都世田谷区瀬田3-6-8  
 公益社 明大前会館 東京都杉並区和泉2-8-6  
 公益社 田園調布会館 東京都世田谷区東玉川2-30-9 **New**  
 公益社 雪谷会館 東京都大田区南雪谷2-1-7  
 公益社会館 たまプラーザ 横浜市青葉区美しが丘2-21-4

公益社 (近畿圏) 公益社 千里会館 吹田市桃山台5-3-10  
 公益社 枚方会館 枚方市山之上東町1-1  
 公益社 正俊寺会館 枚方市長尾宮前2-2-1  
 公益社 守口会館 守口市大日町3-4-28  
 公益社 高槻会館 高槻市野見町4-4  
 公益社 豊中会館 豊中市南桜塚1-21-4  
 公益社 吹田会館 吹田市内本町1-21-3  
 公益社 東大阪会館 東大阪市俊徳町1-6-28  
 公益社 堺会館 堺市堺区宿屋町西1丁1-27  
 公益社 なかもず会館 堺市北区中百舌鳥町2丁3-22-1  
 公益社 共善はびきの会館 羽曳野市恵我之荘3-4-25  
 公益社 岸和田会館 岸和田市上野町東5-1  
 公益社 天神橋会館 大阪市北区天神橋4-6-39  
 公益社 西田辺会館 大阪市阿倍野区阪南町5-16-1  
 公益社 玉出会館 大阪市西成区玉出西1-3-4  
 公益社 城東会館 大阪市城東区関目1-21-20  
 公益社 森小路会館 大阪府大阪市旭区今市2-22-7 **New**  
 公益社 富雄会館 奈良市富雄北1-7-7  
 公益社 西宮山手会館 西宮市城ヶ掘町1-40  
 公益社 住吉御影会館 神戸市東灘区住吉宮町7-3-8 **New**  
 公益社 宝塚会館 宝塚市小浜2-2-63

葬 (山陰地方) 鳥取ホール 鳥取県鳥取市商栄町171  
 吉方ホール 鳥取県鳥取市吉方153-7  
 岩美ホール 鳥取県岩美郡岩美町浦富645-9  
 米子葬祭会館 鳥取県米子市長砂町1075  
 安倍ホール 鳥取県米子市安倍51  
 福米ホール 鳥取県米子市新開6-3-15  
 境港ホール 鳥取県境港市上道町3588  
 余子ホール 鳥取県境港市竹内町1864-2  
 安来ホール 島根県安来市安来町977  
 松江葬祭会館 島根県松江市東津田町1738  
 比津ホール 島根県松江市比津町31  
 東出雲ホール 島根県八束郡東出雲町錦浜583-23  
 大東ホール 島根県雲南市大東町飯田28-1

タ ル イ (兵庫県南部) タルイ会館 舞子 神戸市垂水区舞子坂4-5-20  
 タルイ会館 大蔵谷 明石市大蔵町2-16  
 タルイ会館 新明 明石市新明町9-52  
 タルイ会館 林崎 明石市林崎町2-3-2  
 タルイ会館 大久保 明石市大久保町松陰1111  
 タルイ会館 魚住 明石市魚住町中尾345-1  
 タルイ会館 土山 明石市二見町福里549-1  
 タルイ会館 東加古川 加古川市平岡町一色74

## 連結財務情報

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
[資産の部]		
流動資産	3,623	3,422
現金及び預金	2,475	2,394
営業未収入金	395	420
商品及び製品	167	162
繰延税金資産	280	249
その他	305	195
固定資産	21,545	21,600
有形固定資産	17,998	18,126
建物及び構築物	8,071	7,708
土地	9,567	10,002
その他	358	416
無形固定資産	1,304	1,279
投資その他の資産	2,242	2,194
資産合計 1	25,169	25,022

	前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
[負債の部]		
流動負債	2,875	2,962
営業未払金	659	600
短期借入金	—	300
1年内返済予定の長期借入金	858	612
賞与引当金	398	416
その他	958	1,033
固定負債	3,594	3,129
社債	1,500	1,500
長期借入金	1,647	1,035
その他	447	594
負債合計	6,470	6,092
[純資産の部]		
株主資本	18,699	18,930
資本金	2,568	2,568
資本剰余金	5,488	5,488
利益剰余金	11,655	11,886
自己株式	△ 1,013	△ 1,013
純資産合計 2	18,699	18,930
負債純資産合計	25,169	25,022

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 〔平成21年4月1日～ 平成22年3月31日〕	当連結会計年度 〔平成22年4月1日～ 平成23年3月31日〕
営業収益 3	17,968	17,416
営業費用	15,010	14,449
営業総利益	2,957	2,966
販売費及び一般管理費	1,840	1,791
営業利益 4	1,117	1,174
営業外収益	47	44
営業外費用	107	62
経常利益	1,056	1,156
特別利益	—	5
特別損失	530	38
税金等調整前当期純利益	526	1,123
法人税、住民税及び事業税	435	599
法人税等調整額	△ 51	40
当期純利益	143	483

## 連結キャッシュ・フロー計算書 5

(単位:百万円)

	前連結会計年度 〔平成21年4月1日～ 平成22年3月31日〕	当連結会計年度 〔平成22年4月1日～ 平成23年3月31日〕
営業活動による キャッシュ・フロー	1,753	1,596
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 475	△ 817
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,019	△ 860
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	258	△ 82
現金及び現金同等物の 期首残高	2,210	2,468
現金及び現金同等物の 期末残高	2,468	2,386

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



## Financial Highlights

## 連結業績の推移

第2四半期 期末

## 1 資産

流動資産は、前期発生した未収還付法人税等が、今期中に1億21百万円清算されたことを主な要因として、2億1百万円減の34億22百万円となりました。固定資産は、新規会館である、「公益社 森小路会館」(平成23年4月オープン)および「公益社 住吉御影会館」(平成23年5月オープン)の土地取得や建設仮勘定の計上等を主な要因として、有形固定資産が1億28百万円増加した結果、固定資産合計は、54百万円増の216億円となりました。

## 2 純資産

当期純利益4億83百万円を計上した一方、配当金を2億52百万円支払った結果、利益剰余金が2億31百万円増加いたしました。結果として、純資産合計は、2億31百万円増の189億30百万円となり、自己資本比率は前期末比1.4ポイント増の75.7%となりました。

## 3 営業収益

公益社において平成22年6月下旬から葬儀における料理の取引形式を変更したこと、葬祭3社(公益社、葬仙、タレイ)の葬儀件数は前期比1.4%増加したものの、単価の下落や返礼品売上の減少などにより、営業収益は、前期比5億52百万円減収の174億16百万円となりました。

## 4 営業利益

仕入コスト削減により営業費用が減少し、さらに、販売費及び一般管理費が、人件費の低減を主な要因として前期比2.7%減となった結果、営業利益は、前期比57百万円増益の11億74百万円となりました。また、営業利益率も0.5ポイント向上し、6.7%となりました。

## 5 キャッシュ・フロー

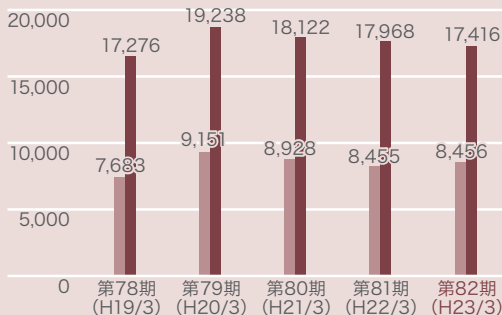
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益11億23百万円、減価償却費7億57百万円を計上した一方、法人税等の支払いによる支出4億99百万円等により、前期比1億57百万円減の15億96百万円の資金増となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出6億32百万円等による減少により、前期比3億41百万円減の8億17百万円の資金減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純増額3億円に対し、長期借入金の返済による支払8億58百万円、配当金の支払額2億52百万円により、前期比1億58百万円増の8億60百万円の資金減となりました。

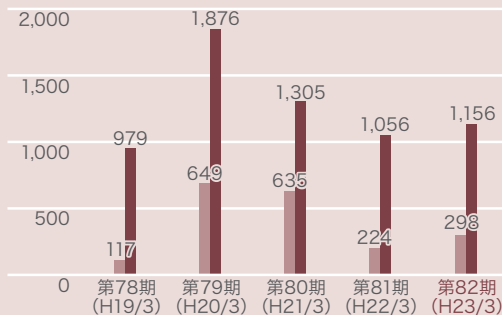
## 営業収益

(単位:百万円)



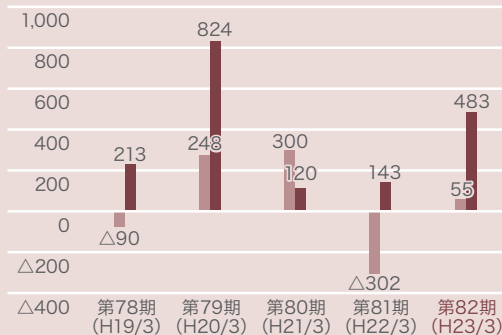
## 経常利益

(単位:百万円)



## 四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

# 知っておきたい豆知識 vol.1

公益社のエンディングノート  
『私の人生アルバム』(非売品)

エンディングノートは、まず連絡表から書き始めましょう。

のこされた家族に負担をかけたくない、という思いから生前に「エンディングノート」に自分の意思や想いを記入しておき、家族が困らないように自らの葬儀やお墓の準備をしておく人が増えています。「エンディングノート」をすでにお持ちのもの、どこから記入していけば

良いか悩まれている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

公益社では、独自に制作したエンディングノート『私の人生アルバム』をもとに、書き方と使い方について紹介しています。介護・看病、葬儀・お墓、資産のことなど、様々な事柄を記入する欄がありますが、まずは、「もしもの時の連絡表」を記入することから始めてはいかがでしょうか。

のこされた家族は、本人が望むように葬儀をしてあげたい、と思うもので



すが、普段離れていると親しい方の連絡先が分からないケースも多いでしょう。悔いのない葬儀を行うためにも、交友関係を整理して連絡先を書き留めておくことをおすすめします。

(※公益社のエンディングノートは、リングファイルで、必要な項目を追加したり、差しかえを行うことができるつくりになっています。事前のご相談をされた方に差し上げています。)



公益社エンディングセミナーの様子

## 株主優待制度の変更に関するお知らせ

当社は、株主の皆様の日頃のご支援に感謝するため、平成9年から現在の株主優待制度を実施してまいりました。今般、中期経営計画への取り組みの一環として、昨年実施いたしました株主の皆様へのアンケート及びこれまでお寄せ頂いたご意見やご要望も勘案し、株主優待制度の今後のあり方を検討いたしました結果、以下のとおり株主優待制度を変更することといたしました。株主の皆様におかれましては、上記事情をご賢察のうえ、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

1. 変更の内容 優待回数を年2回から**年1回**に変更いたします。

① 優待基準 [変更前] 毎年3月31日と9月30日現在、100株以上を所有する株主様に一律に贈呈。



[変更後] 毎年3月31日現在、100株以上を所有する株主様に一律に贈呈。

② 優待内容 3,000円相当の「花とみどりのギフト券」を贈呈(優待内容に変更はありません。)

2. 変更の実施時期 平成23年9月30日現在の株主名簿に記載された株主様より変更させていただきます。

(※平成23年12月上旬の「花とみどりのギフト券」の贈呈はなくなります。)



## 会社概要

2011(平成23)年3月31日現在

商号	燦ホールディングス株式会社
本社所在地	大阪本社 〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神不動産御堂筋ビル8階 TEL:06-6208-3331(代表)
	東京本社 〒107-0062 東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル西館14階 TEL:03-5770-3301(代表)
創業	1932(昭和7)年8月
資本金	25億6,815万円
事業内容	持株会社事業、不動産事業、管理業務受託事業
グループ会社	葬祭事業

株式会社公益社 <首都圏・近畿圏>  
株式会社葬仙 <山陰地方>  
株式会社タルイ <兵庫県南部>

## 葬祭関連事業

関西自動車株式会社  
霊柩自動車の運行/送迎バスの運行

株式会社ユーアイ  
仏壇・仏具の販売/葬祭用贈答品の販売

株式会社デフィ  
生花・料理の提供/  
日本料理レストラン「なごみ庵きたはま」の運営

エクセル・スタッフ・サービス株式会社  
セレモニースタッフの派遣/セキュリティ業務の受託

## 役員

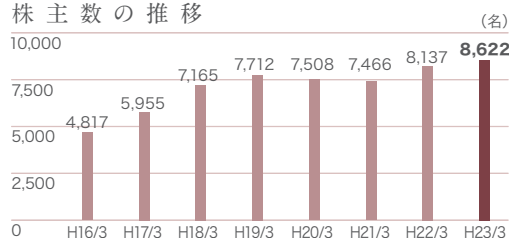
2011(平成23)年6月23日現在

代表取締役会長	播島 幹長
代表取締役副会長	小西 幸治
代表取締役社長	古内 耕太郎
取締役副社長	播島 聡
取締役副社長	野呂 裕一
常務取締役	鈴江 敏一
常務取締役	的羽 元司
取締役	大井 信三
社外取締役	棚橋 康郎
常勤監査役	三神 明
社外監査役	森野 實彦
社外監査役	秋山 哲
社外監査役	榎本 圭吾
常務執行役員	宮島 康子
執行役員	森 弘幸

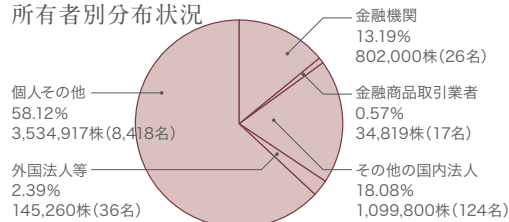
## 株式の状況

2011(平成23)年3月31日現在

発行可能株式総数 21,000,000株  
発行済株式の総数 6,082,008株  
株主数の推移



## 所有者別分布状況



※上記構成には当社所有の自己株式465,212株(7.65%)は含みません。



<http://www.san-hd.co.jp>

当社はホームページにおきましても最新のトピックスをはじめとして、IR 情報や会社情報など様々な情報をご案内しております。



燦ホールディングス株式会社  
SAN HOLDINGS

株主メモ

証券コード/9628  
 事業年度/毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会/毎年6月  
 基準日/定時株主総会 毎年3月31日  
 /期末配当金 毎年3月31日  
 /中間配当金 毎年9月30日(その必要あるときは、あらかじめ公告して定めます。)

単元株式数/100株  
 株主名簿管理人および/〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
 特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社  
 株主名簿管理人/〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (郵便物送付先)/〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)/☎0120-176-417  
 (インターネットホームページURL)/<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>  
 公告方法/日本経済新聞に掲載します。

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】  
 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、左記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】  
 株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)をご利用されなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。

お問い合わせ先  
 IR担当/TEL.06-6226-0038 FAX.06-4707-8784  
 ご提供資料/事業報告書(中間事業報告書) アニュアルレビュー  
 Eメールアドレス/ir@san-hd.co.jp

※この冊子についてのお問い合わせは、上記IR専用電話番号までお願いいたします。